

日本教育支援協働学会

設立記念シンポジウム

日時：2018年2月3日(土)
13:00 ▶▶▶ 16:30

場所：東京学芸大学 W110

▶ シンポジウムⅠ (13:00 ~ 14:30)

「教師の多忙化を学社連携から考える」

- ・「教師の多忙化を考える～小中学校時代の教師の印象～」(学生報告)
- ・「教師の仕事と日常」上原 陽博(東京都小金井市立小学校教諭)
- ・「学生目線で考える地域連携のアイデア」(学生報告)
- ・「キャリア教育を支える学校外組織の取り組み」
恒川かおり(NPO 法人未来図書館主任コーディネーター)

○全体討議コメンテーター：

大橋 明(八王子市教育委員・前全国連合小学校長会会長)

▶ シンポジウムⅡ (15:00 ~ 16:30)

「未来の学校ーしたいこと、できること、してほしいこと」

シン
ポ
ジ
ス
ト

- 片山嵐太郎(学芸大E類多文化共生教育コース・3年)
- 新崎 国広(大阪教育大学教育協働学科・教授)
- 堤 周作(富田林中学校・教頭)
- 倉成 英俊(株式会社電通)
- 松田 恵示(東京学芸大学・副学長)

情報化と国際化のはざま、子ども支援や教育のあり方が多様化する時代、チーム学校と地域の連携・協働がより急速に進みつつあります。「教育支援」「教育協働」という新しい実践事例を集積・交流させ、より充実した実践を生み出すための知の創出に、いっしょに取り組んでみませんか！

学会設立趣旨

情報化と国際化が進み、持続可能性が大きな課題となる変化の激しい現代社会にあって、子どもの最善の利益を護り、子どもとともに日本、そしてアジアを中心とする諸外国の未来を拓く、協働的な教育的営為の場となる学校が求められています。

こうした「未来の学校」とは具体的にどのようなものとして構想できるのでしょうか。

現在、わが国では学校教員以外の専門スタッフを学校内で組織化し学校改革を促す「チームとしての学校」という考え方や、コミュニティスクール・地域学校協働本部等に代表される家庭・地域や企業等との連携・協働をさらに進める考え方などが、教育政策として提起されています。こうした政策に注目しつつ、新しい実践事例を柔軟に集積・交流させ、より充実した実践を生み出すための知の創出を目指す本学会こそ、その設立に際して「未来の学校」を描き、そこにむけて「したいこと、できること、してほしいこと」を提起したいと考えました。

具体的には、教育支援・教育協働を担う人材養成をすすめるためのコースに学ぶ大学生から、次世代を担う若者として描く学校の姿を提起してもらうことから始めます。そして、企業がデザインする新しい学校のカタチと重ね合わせつつ、研究と人材養成を担う大学教員、現実の学校教育を担う現職教員、文部科学行政を担う高度行政職を交えて、それぞれの立場から「したいこと、できること、してほしいこと」を開示しあい、「未来の学校」にむけたスタートとなる化学反応を引き起こそうと企てました。

多くの、多様な方々の参加をお待ちしております。

(「日本教育支援協働学会」設立準備員会・発起人一同)

お問い合わせ

日本教育支援協働学会ホームページ → <http://kyoiku-shien-kyodo.org/>

会場へのアクセス

- JR 武蔵小金井駅北口 (徒歩の場合は約20分)
【京王バス】(5番バス停)
「小平団地」行に乗車 約10分～「学芸大正門」下車 徒歩約3分
- JR 国分寺駅北口 (徒歩の場合は約20分)
【銀河鉄道バス】(国分寺駅入口バス停)
「小平駅南口」行に乗車 約7分～「学芸大学」下車 徒歩約3分
- 西武新宿・拝島線小平駅南口
【銀河鉄道バス】(小平駅南口バス停)
「国分寺駅入口」行に乗車 約14分～「学芸大学」下車 徒歩約3分
※銀河鉄道バスは学芸大北門前に止まります

